

診 断 書 記 載 例

1	氏名	鈴木 A 太郎	(男)・女	
	生年月日	M・T・(S)・H	2 年	○ 月 ○ 日生 (81 歳)
	住所	東京都○□区×○町▽△番○号		
<p>2 医学的診断</p> <p>診断名 老年認知症</p> <p>所見 (現病歴, 現在症, 重症度, 現在の精神状態と関連する既往症・合併症など) 数年前から物忘れを含めた高次脳機能障害が出現。 姉と2人暮らしのため, 全て生活面のサポートを姉が行っていた。 2年前に徘徊で警察に保護されたことがある。 数分前の事柄も忘れてしまう。</p> <p>備考 (診断が未確定のときの今後の見通し, 必要な検査など)</p>				
<p>3 判断能力についての意見 (下記のいずれかをチェックするか, (意見)欄に記載する)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 自己の財産を管理・処分することができない。</p> <p><input type="checkbox"/> 自己の財産を管理・処分するには, 常に援助が必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> 自己の財産を管理・処分するには, 援助が必要な場合がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 自己の財産を単独で管理・処分することができる。</p> <p>(意見)</p> <p>判定の根拠 (検査所見・説明) MMSE 12点。場所的及び対人的な見当識に高度の障害があり, 他人との意思疎通もほとんどできない。脳の萎縮は著しく, 記憶力の障害は著しい。</p> <p>備考 (本人以外の情報提供者など)</p>				

以上のとおり診断します。

平成 21 年 ○ 月 ○ 日

病院又は診療所の名称・所在地 東京都○×区△○町□□番○号 A野総合病院

担当診療科名 精神科

担当医師氏名 ○ ○ ○ ○

印